

## 三重農政事務所地域第二課交渉（全農林東海地本南勢分会）

### 議 事 要 旨

1. 開催日時 : 平成21年12月25日（金） 18:12～18:51

2. 場 所 : 三重農政事務所地域第二課 会議室

3. 出席者

（当 局） : 鈴木 正美 伊勢統計・情報センター長  
          中西 巧蔵 伊勢統計・情報センター次長  
          石田 定弘 熊野統計・情報センター長  
          蒲 賢二 三重農政事務所地域第二課長  
          村田 敏郎 三重農政事務所地域第二課長補佐（総務）

（南勢分会） : 前田 佳宏 委員長  
              大川 有二 副委員長  
              阪井 正樹 書記長  
              大西 達哉 財政部長

4. 要求事項 : 別 紙

5. 交渉議事要旨

○村田補佐（総務）

今回は、新たな労使関係が構築され最初の交渉である。

本要求は、全農林秋闘要求に基づくものである。

職員団体から要求書の提出を受けたのち、総括労務管理担当者から回答し、その後各労務管理担当者から回答することとする。

○前田委員長

当初4項目の要求を提出したが、交渉対象項目が1項目の超過勤務縮減対策のみになってしまった。他の要求事項は、職員の切実なものであり認めてもらえなかったのは残念である。

書記長から要求書を読み上げる。

○阪井書記長

要求書読み上げ

#### ○蒲課長

超過勤務は、公務を的確に遂行するうえで必要不可欠な場合に、当局の責任において命令を発するものであり、職員が減少するなか労働時間の適正な管理を行うことは、大変重要なことと認識している。

基本的には不要不急の超過勤務の防止に努めるとともに、やむを得ず超過勤務を命ずる場合は、必要最小限にとどめることが重要である。

当局は、従来から超過勤務縮減の実現に向けた様々な取り組みを行っているが、平成21年10月22日「三重農政事務所超過勤務縮減対策検討委員会」を設置し、その要領が制定され、「三重農政事務所超過勤務縮減対策」が決定され、平成21年10月からより一層の縮減に取り組んでいる。

このようななかで、業務量や超過勤務予定を事前に把握し、必要に応じて業務の日程調整や、業務の平準化を図り、今後も超過勤務の縮減に向けた職場の環境作りに努力して参りたい。

地域二課においては、職員の皆さんの協力のもと、昨年に比べて超過勤務が減ってきている。今後も不要不急な超過勤務については行わないようにし、業務が特定の者に偏らないよう当局として対応していく。

#### ○鈴木伊勢統計・情報センター長

伊勢センターの具体的な取り組みについて説明する。

超勤縮減の取組については、やむを得ず超過勤務をする場合は、必要最小限にとどめることが重要であると考えている。伊勢センターは昨年度の9名体制から6名体制へとなり、一人当たりの業務量が増加したが、皆さんのご協力を得ながら業務を進めているところである。

いかに業務の平準化を進めるかという中で、年度当初に業務分担を全員で確認してきたところである。ただ、今年度は前年度の取りまとめがあり7月ごろは調査の取りまとめ等により超過勤務が増大したが、全員で協力しながら業務を行ってきた。従来から超過勤務縮減の実現に向けた取り組みを行っているが、10月以降は「三重農政事務所超過勤務縮減対策」が決定されたので、これに基づき超過勤務の縮減に努めており、今後も縮減に努力して参りたい。

#### ○石田熊野統計・情報センター長

私の考え方も地域二課長、伊勢センター長とほぼ同様であるが、熊野センターもこの4月から職員が1名減となり一人当たりの業務は前年度に比べて増加しているところである。そのような中でやむなく超過勤務をお願いしているのが現状である。

超過勤務は、基本的には不要不急の超勤の防止に努めるとともにやむを得ず行う場合は、必要最小限にとどめることがもっとも重要と考えている。加えて過度の超過勤務は心身の健康を損ねるばかりか生活のゆとり感を損失させ、ひいては公務の能率にも悪影響を与えると考えている。今後も超過勤務の縮減に向けた指導に努めるとともに効率的な業務運営を念頭に置き、三重農政事務所超過勤務縮減対策に基

づき取り組んで参りたい。

その取り組みの中で、職員の業務量や超過勤務予定を事前に把握し、必要に応じて業務の日程調整を行うというようなことで業務の平準化を図って、今後も超過勤務の縮減に向けた職場の環境作りに努力して参りたい。

○前田委員長

二課長にお伺いする。必要に応じて業務の平準化を図ってきたということであるが、11月以降具体的にどのようにしてきたのか。業務の平準化を図った事実はあるのか。

○蒲課長

地域二課としては、職員の皆さんに超過勤務縮減に努力していただいております、その分勤務時間内に食い込むこともあり、たとえば昼の休息時間が短くなることもあったようだが、現時点ではあえて業務の平準化を図る状況ではないと認識している。

○大川副委員長

熊野センターは1名減の中、新規業務で職員が現地へ出かけており、少ない職員で業務調整も出来ない状況にある。時間内の取りまとめに努めているが、勤務時間中は現地に出かけるため時間外に取りまとめ、超勤につながっている。業務の合理化等を含め、超勤を縮減するようお願いしたい。

○石田熊野センター長

新規業務ということで面積関係の実測調査が行われており、ほとんど担当者のところで行っている状況である。担当者は、勤務時間内は出張し取りまとめは時間外で行っている。それを必要最小限にし、日々の超過勤務を縮減していきたい。今後も協力体制を考えながら不要不急の超過勤務が減少するようにしていきたい。

○阪井書記長

二課長、各センター長さんは、それぞれ三重農政事務所の超過勤務縮減策と言われたなかで、平準化を図るとは具体的にどういうことなのか？

○蒲課長

超過勤務すべてが駄目というわけではなく、必要不可欠な部分については、当局の責任において超過勤務の命令を発するという事になっている。職員の健康管理を明確に行う形で再度徹底をする。

○鈴木伊勢センター長

業務の平準化ということについて、伊勢センターも職員が減る中で、年度当初に6

人全員で業務調整を行っているが、調査農家のボリュームが違ったりしている状況もあり、対応の仕方によっては集約が遅くなったりしている。

農家の担当替え等もやりながら業務を進めてきているところであり、これからも平準化に努めていく。

#### ○石田熊野センター長

熊野職員も一人でいくつもの業務を抱えている中で、センター長が職員がどのような業務を行っているのか、どういう状態のところまで業務が進んでいるのかを把握することが大事だと考えている。

職員もこの業務はいつまでにどの程度やれば報告期日に間に合うのかを考えながら計画的に業務を進めている。

職員はいくつもの業務を抱えている中、超過勤務をせざる得ない状況にある。管理職、職員が一体となって行っていくことが重要と考えている。

#### ○大西財政部長

先ほどの伊勢センター長の説明の中で、業務の平準化を図る中で個々の業務を一人の職員に集中させないと言われたが、今は助け合いながらやっているが、1月からは平準化してやっていけるのか疑問がある。

#### ○鈴木伊勢センター長

本来12月に行われるべき業務が遅れてきている。そんな中で漁獲統計調査、漁業経営調査、農業経営調査の取りまとめもあり今年の7月にあった山が来るような形がある。

業務については、伊勢が厳しくなる状況は上部の統計部も知っている。伊勢センターにおいて、面積調査測量修正率等の再計算作業における実測調査については、現在応援体制は組んでいる。

今後、取りまとめの中で職員と意見交換を行い、統計部と相談しフォローを要請していきたい。

取りまとめについては担当者が専門的にやらざるを得ないが、機械的に集計して出来るものは管理者も含めてやっていきたい。

すべてを平準化とはいかないが、職員の協力を得ながらやっていきたい。

#### ○大西財政部長

第4・四半期になって昨年も一昨年も同様だったが、毎年かなりの超過勤務をしている状況で、ましてや職員が、9人から6人になりやっていけるのか。

取りまとめは担当者がやらざるを得ないと思うが、いかがお考えか。

#### ○鈴木伊勢センター長

9人から6人体制になってどのように業務をやっていくかということについては職

員とともに、管理職が率先して業務を進められるようになっていきたいと考えている。外に出る業務も効率的に行い、内部事務に専念できる体制を管理職として作り上げたい。そのような中で止むをえない超勤が発生する場合もあろうかと思うが、職員とよく話し合っけてやっていきたい。

○前田委員長

ただ今3人の管理職の方からいろいろとお話を聞かせていただいたが、3名とも超過勤務縮減に取り組んでいただけるということを確認させていただいた。今後とも超勤縮減に向け頑張ってくださいよう願いたい。

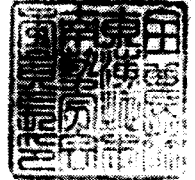
要 求 書

09全農林東海要求第1号  
2009年 12月 25日

東海農政局三重農政事務所

伊勢統計・情報センター長 殿  
熊野統計・情報センター長 殿  
地域第二課長 殿

全農林東海地方本部南勢分会  
委員長 前田 佳宏



要 求 書

以下の要求事項の解決に向け特段の努力をされるよう強く要求します。

1. 超過勤務について、実効ある超過勤務縮減対策の実施により、超過勤務の縮減をすること。